

「歴史塗り替える」



センバツ出場が決まり、ナインを代表して抱負を述べる田村主将(左)。手前左は法官校長。27日午後3時10分ごろ

光星、センバツ初Vへ闘志

「震災から復興の途にある東北の人たちを元気づけるプレーを」。27日、2年連続の選抜高校野球大会出場を決めた光星学院ナインを、法官新一校長が同校中庭で激励した。昨夏の甲子園準優勝、秋の明治神宮大会で日本一と快進撃が続く。周囲からセンバツ初優勝への期待が高まる中、田村龍平主将(2年)は「負けず、去年のセンバツは1勝しかできなかった。歴史を塗り替えるよう頑張ります」

【本記1画】

「全国制覇(という目標)は、とても遠いものなんだと(夏の甲子園決勝で)日大三高に教えてもらった。一戦一戦、目の前の試合を全力で戦つことが、

目標達成につながる」と語る田村主将。柔和な表情ながら、目の輝きが闘志を物語る。他校からのマークが厳しくなり、強まるブレッシャー。神宮大会の舞台を経験した金沢湧紀投手(2年)は「神宮でのピッチング内容は悪かった。センバツでは緊張せず、ベストピッチングをしたい」と意気込んだ。

昨夏の甲子園メンバーは、秋田教員投手(3年)は現チームの投手陣に「甲子園の雰囲気」にのまれないよう冷静に投げれば大丈夫とエールを送る。

と地力を付けなければ」と語る。昨夏、一部部員の飲酒が発覚して日本高野連から処分を受けた。仲井監督は「本当に固

めに迷惑をかけた。東北代表として皆さんに心の底から応援していただけるよう、野球に精進する姿勢を見ていただきたい。被災した方

たちに、どれだけ元氣勇氣を与えられるか。明るく頑張りたい」と決意を込めた。(高木圭一、千葉真由 美)

鍛えた力と技発揮を三村申吾知事。6度目の春の選抜出場、おめでとうとさいます。日頃鍛えた力と技を発揮し、青森県の若人の

はつらつとした姿、そして青森県の元氣を、全国に思いっきりアピールしてください。活躍を期待しています。

被災地へ元氣届けて小林眞八戸市長。甲子園出場、心よりお祝

い申し上げます。春の大会で、ぜひ悲願の初優勝を。24万市民も皆さんの活躍に大いに期待しています。東日本大震災の被災地へ、元氣を届けてくださることを願っています。